

中国音楽史における 「民俗×哲学」

日時：2022年12月10日（土）

13:00～15:00

場所：おおくすハウス

(徳島県三好郡東みよし町加茂1411-1)

Zoom

[https://zoom.us/j/94324915309?](https://zoom.us/j/94324915309?pwd=Qk9memN0NHQ5Yk1WQjErQXRWNERLQT09)

[pwd=Qk9memN0NHQ5Yk1WQjErQXRWNERLQT09](https://zoom.us/j/94324915309?pwd=Qk9memN0NHQ5Yk1WQjErQXRWNERLQT09)



言語：日本語

概要

中国音楽史に関する研究は、フィールドワークを中心として演奏形態や伝承について明らかにする方法のほか、報告者のように、思想史あるいは中国哲学として研究する方法もある。中国の音楽が、古くから経学、すなわち儒学の学問として扱われてきたことに鑑みれば、それは哲学なのかもしれない。しかし同時に、中国の音楽を語る際、民間で親しまれ演奏され続けてきた「俗楽」の存在は無視できない。このように捉えれば中国音楽史は必然的に「民俗×哲学」の視点で研究されるべきものなのだ。本報告ではこのような中国音楽史のあり方を、いくつかの思想家の言説とともに紹介する。

報告者

田中 有紀（東洋文化研究所）

コメンテーター

柳 幹康（東洋文化研究所）

司会

山 泰幸（関西学院大学）